

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20110301～継続中

所在地 海老名市河原口

時代

弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世

作成日:20110518

概要

本調査は神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業に伴って実施された発掘調査です。関連事業による調査は平成18～22年度にも断続的に実施されています。場所は海老名市の西部、JR相模線・小田急小田原線厚木駅の北西約1kmに位置し、市域の西縁を南流する相模川中流域左岸に展開する標高21～22mの沖積微高地に立地しています。遺跡の所在する河原口地区は小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の東岸に当たります。

現在調査を行っている河川Ⅱ⑤地区は、平成23年3月より開始しました。調査範囲は、平成22年4月から10月まで調査した①地区の北側隣接地255㎡です。調査期間は、平成23年3月から11月末までの予定で、中・近世～弥生時代までの調査を予定しています。近世では、畑の畝の痕跡が調査区のほぼ全面で確認されています。中世～奈良・平安時代の調査では、竪穴状遺構が10軒以上確認され、これらの掘り込みを覆っていた土の中からは、漁労に関連すると思われる土錘(どすい:網などに付けるオモリ)が多数出土しています。当時の人々も相模川で鮎などの魚を取って、生活の糧としていたのかもしれませんが。



▲ 10号竪穴状遺構(奈良・平安時代)



▲ 中世～奈良・平安時代の調査面



▲ 畝状遺構全景(近世)